

令和7年度

講義要項

経営学研究科経営学専攻

博士後期課程

埼玉学園大学大学院

成績評価について

〔成績評価の方法〕

授業科目毎の成績評価方法は各科目のシラバスに記載されています。評価項目ごとに配点比率が明示されていますので、確認してください。

〔成績評価の内容〕

成績は、「S」「A」「B」「C」「D」と表記されます。このうち「S」「A」「B」「C」は合格です。合格と判定された科目には所定の単位が与えられます。「D」と表記された科目は不合格ですので単位は修得できません。具体的な評価内容は以下のとおりです。

素点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
成績通知表	S	A	B	C	不可
成績証明書(和文)	S	A	B	C	表記しません
成績証明書(英文)	S	A	B	C	表記しません
合否	合 格				不合格

※ 令和4年度までの成績評価で、素点が90点以上だったものは「S」として取り扱います。

目 次

経営学特講（工藤 悟志）	1
経営組織論特講（文 智彦）	2
ヘルスケアサービス・マネジメント特講（一戸 真子）	3
地域企業論特講（塩谷さやか）	4
国際経営特講（工藤 悟志）	5
経営史特講（平田 礼王）	6
マーケティング論特講（水野はるな）	7
労務管理特講 ※本年度休講	8
財務会計特講（篠原 淳）	9
管理会計特講（秋山 盛）	10
国際会計特講（篠原 淳）	11
経営財務特講（中沢 浩志）	12
租税法特講（岡部 洋一）	13
貨幣論特講（藤井 大輔）	14
金融論特講（花崎 正晴）	15
国際金融論特講（秋場 勝彦）	16
リスク・マネジメント特講（冨家 友道）	17
特別研究指導Ⅰ（一戸 真子）	18
特別研究指導Ⅱ（一戸 真子）	19
特別研究指導Ⅲ（一戸 真子）	20
特別研究指導Ⅰ（花崎 正晴）	21
特別研究指導Ⅱ（花崎 正晴）	22
特別研究指導Ⅲ（花崎 正晴）	23
特別研究指導Ⅰ（岡部 洋一）	24
特別研究指導Ⅱ（岡部 洋一）	25
特別研究指導Ⅲ（岡部 洋一）	26
特別研究指導Ⅰ（塩谷さやか）	27
特別研究指導Ⅱ（塩谷さやか）	28
特別研究指導Ⅲ（塩谷さやか）	29
特別研究指導Ⅰ（篠原 淳）	30
特別研究指導Ⅱ（篠原 淳）	31
特別研究指導Ⅲ（篠原 淳）	32
特別研究指導Ⅰ（中沢 浩志）	33
特別研究指導Ⅱ（中沢 浩志）	34
特別研究指導Ⅲ（中沢 浩志）	35
特別研究指導Ⅰ（Ⅱ・Ⅲ）（藤井 大輔）	36
特別研究指導Ⅰ（文 智彦）	37
特別研究指導Ⅱ（文 智彦）	38
特別研究指導Ⅲ（文 智彦）	39
特別研究指導Ⅰ（工藤 悟志）	40
特別研究指導Ⅱ（工藤 悟志）	41
特別研究指導Ⅲ（工藤 悟志）	42
特別研究指導Ⅰ（秋場 勝彦）	43
特別研究指導Ⅱ（秋場 勝彦）	44
特別研究指導Ⅲ（秋場 勝彦）	45
特別研究指導Ⅰ（水野はるな）	46
特別研究指導Ⅱ（水野はるな）	47
特別研究指導Ⅲ（水野はるな）	48

授業概要

経営学特講では、企業経営の根源的な問題の一つである経営倫理の問題に対して、「倫理と企業者活動」の切り口からアプローチする。本講義では明治期から昭和初期にかけて活躍した代表的な企業者として渋沢栄一を取り上げる。渋沢の事績を通して日本資本主義の発展過程における、倫理思想に裏づけられた企業者活動を考察する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス ―講義計画― 経営倫理について
第 2 回	渋沢栄一の事績と思想
第 3 回	渋沢研究史序論 ―研究史の整理―
第 4 回	渋沢の企業者活動(1) ―渋沢の関与企業―
第 5 回	渋沢の企業者活動(2) ―企業創立への関与―
第 6 回	渋沢の企業者活動(3) ―株主總會への関与―
第 7 回	渋沢の企業者活動(4) ―社外重役・外部者としての関与―
第 8 回	企業者活動と情報(1) ―渋沢の情報活動―
第 9 回	企業者活動と情報(2) ―出資と経営―
第 10 回	企業者活動と情報(3) ―経営者層の啓蒙―
第 11 回	企業と資金活動(1) ―渋沢の資金管理―
第 12 回	企業と資金活動(2) ―渋沢の出資動向―
第 13 回	企業と資金活動(3) ―資金と信用―
第 14 回	企業と資金活動(4) ―第一銀行の経営―
第 15 回	演習のまとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

本講義では、「企業倫理と企業者活動」に関する知識を高度なレベルで修得することを到達目標とする。これにより、いかなるテーマで博士論文を作成する場合でも、企業経営について倫理的側面から検討を加えるにあたって必要な知識と、その応用を可能ならしめる力量を蓄える。

履修上の注意

対面授業形式で行う。履修者は参考書の各章を読み込み、指定するテーマに基づいて毎回レポートを提出する。発表後、テーマに沿って議論を行う。履修者は積極的に議論に参加することが求められる。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行う。

評価方法

毎回の講義で指定するテーマに関する課題レポートの評価を 60%加味する。期末試験は全講義を通して学んだ内容に基づいた論文作成を課し、その内容評価を 40%加味する。

テキスト

参考書：島田昌和『渋沢栄一の企業者活動の研究』（日本経済評論社、2007 年）。

授業概要

本講義では、優れた意思決定を行うための組織のあり方について講義する。
組織の存続と発展のためには優れた戦略が、優れた戦略のためには優れた戦略的意思決定プロセスが構築されなければならない。本講義では、優れた意思決定とりわけ戦略的意思決定を行うための組織のあり方について考察する。

授業計画

第1回	概要
第2回	意思決定の神話
第3回	意思決定の難しさ
第4回	戦略的意思決定とは
第5回	戦略的意思決定プロセスの諸モデル
第6回	戦略的意思決定プロセスに関する事例研究
第7回	戦略的意思決定プロセスに関する理論研究
第8回	コンティンジェンシー・アプローチ
第9回	戦略的選択アプローチ
第10回	社会的相互作用アプローチ
第11回	アクティビティ・ベースト・アプローチ
第12回	戦略的意思決定プロセスに関する実践理論
第13回	戦略的意思決定の改善のためのテクニック・スキル
第14回	意思決定プロセスの事例分析①
第15回	意思決定プロセスの事例分析②
第16回	総括

到達目標

理論について批判的視点から体系的に理解し、博士論文作成のための独創的な視点を養う。
理論に基づき事例を分析し、具体的な構想を提示する能力を構築する。

履修上の注意

事前に文献を読み理解し、授業内では積極的に議論に参加することを求める

評価方法

ディスカッション（20%）・プレゼンテーション（20%）・レポート（60%）により評価

テキスト

授業内で指示する

授業概要

グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント理論の構築について講義する。特に、急速に展開するヘルスケアサービスに関するグローバル化について理解を深められるように指導する。どの国がどのようなヘルスケアサービス問題を抱えているか、日本はどのような点が優れているか、各国の取り組みを総合して望ましいヘルスケアサービス・マネジメントはどうあるべきかについても講義する。また、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の動向や医療の標準化や評価の流れについても講義する。

授業計画

第1回	グローバルな視点からみたヘルスケアサービス・マネジメント
第2回	ベストプラクティス/パフォーマンスとマネジメント
第3回	ヘルスケア・コンシューマー・オリエンティッド
第4回	WHO、OECD、WMA等の役割
第5回	JICA、Bill & Melinda Gates Foundation、The World Bank等の役割
第6回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント①：アメリカ・イギリス
第7回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント②：カナダ・オーストラリア
第8回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント③：ドイツ・北欧諸国
第9回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント④：中国・その他のアジア諸国
第10回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント⑤：途上国
第11回	教育・研修の重要性
第12回	国際認証評価 JCI、ISQua
第13回	Policy、System、Universal Standards
第14回	Quality、Safety、Efficiency、Accessibility
第15回	UHC（Universal Health Coverage）
第16回	期末試験

到達目標

- ① グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメントの基本的視点が理解できる。
- ② 各機関の役割やアプローチが理解できる。
- ③ わが国のヘルスケアサービス・マネジメントの現状を客観的に分析できる。
- ④ ユニバーサル・ヘルスカバレッジ（UHC）について理解を深める。
- ⑤ 国際認証評価や医療の標準化で重要とされている視点について説明できる。

履修上の注意

グローバルな視点で医療について考える習慣をつけて欲しい。
欧米の文献を使用するので、英語力も身につけることを求める。
予習・復習各2時間程度。

評価方法

レポートおよび発表 40%、期末試験 60%

テキスト

教科書は特に指定しない。必要に応じて適宜資料を配布する。

授業概要

本講義では、国内、海外の地域経済を担っている地域企業と地域中小企業の事例研究を通じて、どのような独自戦略を展開して発展しているかを講義する。また、受講生が自ら地域企業や地域中小企業を調査、分析することにより、課題を抽出し解決策まで提案することで、理解を深めることを目的としている。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	地域企業、地域中小企業とは何か
第3回	地域企業、地域中小企業の調査項目のとは何か
第4回	地域企業、地域中小企業のケーススタディから各々2つ以上を選択
第5回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第6回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第7回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第8回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第9回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第10回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第11回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第12回	地域企業、地域中小企業のケーススタディのプレゼンテーション
第13回	各自レポートの発表と討議
第14回	各自レポートの発表と討議
第15回	各自レポートの発表と討議
第16回	定期試験またはレポート

到達目標

地域企業、地域中小企業の実態を学ぶことで、国内外の経済社会の変化と将来を展望できる能力を身に付けることを目標とする。

履修上の注意

本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
 ★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
 ★関心のある企業の「経営」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。

評価方法

- 1) 期末試験もしくはレポートの成績（50%）
- 2) プレゼンテーション（40%）
- 3) 講義への貢献度、グループディスカッション、リアクションペーパー（10%）

テキスト

教科書名：『知られざる日本の地域力』

著者名：椎川忍ほか 9 名

出版社名：今井出版

出版年（ISBN）：2015（978-4906794676）

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。

授業概要

本講義は、国際企業経営、世界企業の行動の特質、などの解明を目的とし、そのための 1 つの手立てとして、世界石油産業界の主導的な大企業群（国際石油企業）の活動を講義します。19 世紀中葉のアメリカにおいて発祥した近代石油産業は、19 世紀の末までに海外に多数の子会社を持つ世界企業を登場させました。最大企業ニュージャージー・スタンダード石油会社（現エクソンモービル社）の企業史は、世界企業とは何か、企業の活動の国際化とは何かを我々に知らしめる好個の検討素材を提供しています。本講義は、21 世紀の今日までを射程に入れて、国際石油企業の活動を考察し、国際企業経営についての深い理解の獲得を目指します。

授業計画

第 1 回	はじめに
第 2 回	現代経済と石油産業
第 3 回	世界石油産業の発展と国際石油企業
第 4 回	19 世紀後半・末におけるスタンダード石油会社による世界市場支配
第 5 回	両大戦間期における世界石油産業の再編成
第 6 回	第 2 次大戦後の中東地域での国際石油企業による油田支配
第 7 回	1970 年代における中東地域での油田支配体制の変貌
第 8 回	国際石油企業による原油生産体制の再構築－1970 年代
第 9 回	国際石油企業による原油生産体制の新展開－1980 年代、90 年代
第 10 回	国際石油企業による原油生産体制の現段階－21 世紀初頭以降
第 11 回	国際石油企業による製品販売体制の再編成－1970 年代以降
第 12 回	国際石油企業による事業の多角化戦略の追求－1970 年代以降
第 13 回	国際石油企業の経営組織の再構築－エクソンモービル社を対象に
第 14 回	国際石油企業の現段階
第 15 回	総括
第 16 回	課題レポートの提出と発表

到達目標

国際石油企業の活動を追跡し、世界企業とは何か、国際企業経営とは何かについての深い理解の獲得を目指します。

履修上の注意

- (1) レジュメや資料（統計、図表など）を配布し、これに沿って解説します。但し、以下の論文等を用いるときは、出席者に報告を求めます。
- (2) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。

評価方法

レポートの提出、討論への参加をそれぞれ 50% で評価します。

テキスト

現時点ではテキストを予定していませんが、参加者と話し合いの上、演習方式を取り入れる場合は、以下の小論などを配布します。

伊藤孝「1970 年代におけるエクソン社の原油獲得活動」、『社会科学論集』、埼玉大学、第 138 号、2013 年、

伊藤 孝「エクソンモービル社の史的展開－1970 年代初頭から 21 世紀の最初の数年間まで－」、『社会科学論集』、埼玉大学、第 149・150 合併号、2017 年、

参考文献：

伊藤 孝『ニュージャージー・スタンダード石油会社の史的研究－1920 年代初頭から 60 年代末まで』、北海道大学図書刊行会、2004 年、

授業概要

この講義の前半（第 5 回まで）は戦後日本の企業経営史について講義する。中盤（第 6 回から第 13 回）は、近年注目が高まっている企業の社会的責任や環境経営の歴史について概観します。後半（第 14 回以降）は、日本の企業経営との関連で、アジアの企業経営史の特徴と問題点について、文献を講読していきます。本講義では、アジアとの比較を通して、日本の企業経営史の特徴について理解を深めるとともに、近年の企業経営には必須となりつつある企業の社会的責任について理解を深めます。講義科目ですが、受講生による文献内容の報告など、双方向の議論を重視した授業を展開します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の確認など）
第 2 回	第二次世界大戦後の日本の企業経営①：財閥から企業集団へ
第 3 回	第二次世界大戦後の日本の企業経営②：労使・工職関係の変化
第 4 回	経済成長と日本型企業経営：高度成長から 1980 年代末までの企業経営
第 5 回	長期低迷と再生の条件：1990 年代以降の日本企業
第 6 回	企業の社会的責任の変遷
第 7 回	企業の社会的責任に関する文献講読①
第 8 回	企業の社会的責任に関する文献講読②
第 9 回	企業の社会的責任に関する文献講読③
第 10 回	環境経営の歴史
第 11 回	企業の環境経営に関する文献講読①
第 12 回	企業の環境経営に関する文献講読②
第 13 回	企業の環境経営に関する文献講読③
第 14 回	アジアの企業経営史に関する文献講読①
第 15 回	アジアの企業経営史に関する文献講読②
第 16 回	期末レポート

到達目標

- 本講義で得た知見をもとに、自身の研究との関連性、応用可能性を認識できる。
- 近年、社会からの要請が高まっている企業の社会的責任や環境経営について適切に理解できる。
- 日本経営史とアジアの企業経営史の違いを理解することができる。

履修上の注意

- 受講生による指定文献の報告など、双方向の議論を重視した授業を展開しますので、授業での積極的な貢献が求められます。

予習・復習

予習：各回の講義で予定されているテーマについて、書籍やウェブサイトなどを使用し予習すること。その他、指定された文献を事前に通読しておくこと。

復習：授業で取り扱った内容を自らの言葉で説明できるように復習すること。

評価方法

期末レポート 50%、報告内容 30%、授業への取り組み・姿勢 20%

テキスト

必要に応じて適宜指示します。

授業概要

本講義は、マーケティングに関する文献研究を読み進めることを通して、近年行われてきたマーケティング研究の動向を把握することを目的に講義します。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	和文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握①
第3回	和文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握②
第4回	和文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握③
第5回	和文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握①
第6回	和文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握②
第7回	和文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握③
第8回	英文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握①
第9回	英文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握②
第10回	英文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握③
第11回	英文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握①
第12回	英文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握②
第13回	英文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握③
第14回	マーケティング研究における文献レビューの方法
第15回	まとめ
第16回	レポートの提出

到達目標

本演習は、以下の1点を到達目標とします。

- ・マーケティング研究の研究動向を理解し、研究に活かすことができる。

履修上の注意

この講義は、少人数で行われることが予想されます。活発な議論を行うために出席は必ずするようにしてください。無断での欠席や遅刻は厳禁とします。

予習・復習

特に指定はしません。

評価方法

発表…50点、レポート50点の計100点満点で評価する。

テキスト

- ・テキストは定めない。必要な資料は適宜配布します。

授業概要

授業計画

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

到達目標

履修上の注意

予習・復習

評価方法

テキスト

授業概要

市場のグローバル化により、財務会計制度はその対応を一番求められる分野である。特に会計基準は、国際会計基準（IFRS）のように、公正価値評価による会計情報を重視するなど会計観の変化をもたらしている。ここでは、これまで習得した会計諸基準の知識を踏まえて、博士論文作成に必要な水準に理論を深化させ、現実問題の実証あるいは実態分析などに必要な技法の習得させることを意図している。特に「金融商品」、「公正価値測定」、「収益認識」などの特徴分析において、資産負債アプローチに基づく会計基準の計算構造とその基礎をなす概念フレームワークの体系的理解を主眼とする。

授業計画

第1回	受講生の問題意識の確認、財務会計の概要
第2回	財務会計の存在意義と会計研究の方向性
第3回	財務会計における「理論的研究と実態あるいは実証分析」の意義
第4回	財務会計制度の理論的形成の分析
第5回	財務会計の法的規制と会計基準の体系
第6回	財務会計概念フレームワークの意義と特徴分析
第7回	公正価値測定の意義とその特徴分析
第8回	損益認識と資産・負債評価の関連性
第9回	収益費用アプローチと資産負債アプローチの意義と特徴
第10回	利益概念の変化 ―純利益と包括利益の特徴分析―
第11回	収益認識の理論的検討―実現稼得モデルと顧客契約モデル
第12回	負債と資本の概念的分析
第13回	条件付持分請求権（新株予約権など）の会計
第14回	金融商品会計の理論的分析
第15回	デリバティブの会計処理
第16回	定期試験

到達目標

- ・博士論文の作成に必要な会計理論と制度分析に関する知識を習得することができる。
- ・グローバル化に伴う会計問題についての分析力を向上させることができる。
- ・会計制度の国際的動向や会計情報の分析能力を習得できる

履修上の注意

- ・授業の進め方は講義形式と受講生による発表を中心とする。
- ・授業での積極的な貢献が求められる。

予習・復習

- ・指示した事項や自己の論文テーマに関する予習・復習に務めること。

評価方法

期末試験またはレポート報告 60%、授業での積極性（報告の内容及び質疑応答など）40%

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて参考文献を指示したり、関連資料を配布を行う。

授業概要

企業は常に成長し続けることが必要であり、そのために経営者は経営理念やビジョンを示し、戦略を策定のうえ組織内に浸透させていくことが求められる。こうした戦略を具現化するために企業は一般的に、まずは中長期および短期の計画をたて、予算を編成・執行する。管理会計は、これら戦略の具現化のために活用され、企業活動のさまざまな局面で経営者を支援し、組織構成員に影響を与えていくシステムである。

本授業ではこのような、組織内へ働きかけるマネジメント・コントロールとしての管理会計の影響システムの側面を踏まえ、管理会計の基本的な理論、伝統的な管理会計手法や応用的な枠組みを振り返ったうえで、発展的な理論としてのスループット会計、アメーバ経営、品質管理会計、環境管理会計などにも踏み込み、受講生における博士論文の作成も念頭におきながら講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、管理会計の概念・意義、など
第 2 回	管理会計のアプローチ（意思決定アプローチ、業績管理アプローチ）
第 3 回	経営計画、直接原価計算、CVP 分析、利益計画
第 4 回	設備投資計画・投資意思決定、ライフサイクルコストリング(LCC)、企業予算
第 5 回	事業部の業績管理、原価管理・標準原価計算
第 6 回	活動基準原価計算(ABC)・活動基準原価管理(ABM)
第 7 回	原価企画①
第 8 回	原価企画②
第 9 回	マネジメント・コントロール、バランス・スコアカード(BSC)・戦略マップ①
第 10 回	マネジメント・コントロール、バランス・スコアカード(BSC)・戦略マップ②
第 11 回	制約理論(TOC)、スループット会計
第 12 回	アメーバ経営
第 13 回	品質管理会計
第 14 回	環境管理会計、マテリアルフローコスト会計(MFCA)
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

管理会計の全体像を説明でき、担当教員と対等に議論しうる状態であることを到達目標とする。

履修上の注意

指定教科書の該当部分を予習しておくことが必要となる。受講学生が必要に応じて文献調査などを行うことを想定している。

予習・復習

予習と復習は必要となる。別途、文献調査なども必要となる。

評価方法

定期試験(もしくは代替としての課題等)が 60%、平常点が 40%で評価。平常点は受講態度、授業関与度合いを中心に評価。

テキスト

- ・教科書名：異論・正論 管理会計
- ・著者名：伊藤嘉博・日時壮浩
- ・出版社名：中央経済社
- ・出版年：2021 年

授業概要

この授業の目的は修士課程での国際会計特論の講義の水準を発展・進化させることを踏まえて、論文作成に必要な国際会計論の理論を学ぶことである。IFRS 適用には資産と負債における公正価値の評価範囲の拡大と包括利益の表示による利益概念の変化に対処することが要求される。特に、IFRS 適用企業を中心に財務諸表の事例分析を通して、IFRS と日本基準との理論的関連性を分析するとともに、IFRS 適用のあり方や日本の企業会計の国際的に対応するための手法を講義する。

授業計画

第1回	国際会計基準（IFRS）の意義とその特徴
第2回	会計国際化の変遷と IFRS 適用の状況
第3回	日本基準の固有性と IFRS との関連性分析(1)
第4回	日本基準の固有性と IFRS との関連性分析(2)
第5回	公正価値会計の特徴と論点整理
第6回	公正価値会計の適用上の個別論点
第7回	公正価値評価とその影響分析の争点
第8回	会計観の相違と利益概念の変化との関連性
第9回	包括利益の概念と論点整理
第10回	包括利益の導入と業績報告
第11回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(1)
第12回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(2)
第13回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(3)
第14回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(4)
第15回	日本における IFRS 適用の課題とその可能性の検討
第16回	定期試験

到達目標

- ・博士論文の作成に必要な会計理論と制度分析に関する知識の習得できる。
- ・グローバル化に伴う国際会計問題についての分析力の向上できる。
- ・会計制度の国際的動向や会計情報の分析能力の習得できる。

履修上の注意

- ・授業の進め方は講義形式と受講生による発表を中心とする。
- ・自己の論文テーマに関する予習復習に務めること。
- ・授業での積極的な貢献が求められる。

予習・復習

授業の理解度を高めるために、レポートなどを通して講義内容に合わせて国際会計の関連用語を熟知させる。

評価方法

期末試験またはレポート報告 60%、授業での積極性（報告の内容及び質疑応答など）40%

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて関連資料を配布する。

授業概要

企業財務やコーポレートファイナンスにおいて探求すべきと考える特定のテーマについて知識を得て、議論をおこない、理解を深めることを目標とします。企業成長の必要性、無形資産の取扱い、生産性分析、機関投資家への対応、コーポレートガバナンス対応、ベンチャービジネスの理解、M&Aの評価の評価を選びました。これらは昨今の経営財務論において重要性を増しているテーマでありますので、しっかりとした知見を習得することを目指します。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	企業成長の必要性
第3回	企業成長にかかる課題発表と議論
第4回	無形資産の取扱い
第5回	無形資産にかかる課題発表と議論
第6回	生産性分析
第7回	生産性分析にかかる課題発表と議論
第8回	機関投資家への対応
第9回	機関投資家にかかる課題発表と議論
第10回	コーポレートガバナンス対応
第11回	コーポレートガバナンスにかかる課題発表と議論
第12回	ベンチャービジネスの理解
第13回	ベンチャービジネスにかかる課題発表と議論
第14回	M&A の評価
第15回	M&A の評価にかかる課題発表と議論
第16回	期末試験または期末レポート

到達目標

各テーマの探求により企業財務への理解を深めることができる。

履修上の注意

2回の講義をワンセットとして、一回目で講義をします。2回目では事前課題の解説と議論により理解を深めます。2回目終了時に課題を提出してもらいワンセット終了とします。経済新聞や経済雑誌の証券・金融欄はよく目を通して独自の材料を用意することも期待します。大学院後期課程なので、主体性が重要であり講義で積極的に発言や質問をしてください。

予習・復習

教科書により講義内容の予習をおこなってください。事前課題は必ず済ませて出席していただかないと、講義に支障がでます。

評価方法

講義での理解度（事前課題の回答内容を確認します）30%と期末試験または期末レポート 70%

テキスト

坂本恒夫・鳥居陽介編、現代財務管理論研究会著『経営力と経営分析』（2017年、税務経理協会、ISBN9784419064518、2970円）の内容に沿って進めます。補足資料と事前課題は当方で用意します。

授業概要

本講義は、博士論文作成の一助とするためのものである。

博士論文は、先行研究を踏まえた上で、先行研究にはない新規性が論文の成果として必要とされる。さらに、他国の租税法との比較を踏まえて得られる日本の租税法に対する示唆と提言も求められる。

かかる状況の下、前半の授業は、受講者の博士論文に選定しようと考えているテーマに係る日本の先行研究(主に博士論文)および裁判例の輪読を行うことで、当該テーマについて既に先行研究がなし得た成果を把握し、さらにそのアプローチ方法を学んでもらう。

さらに、後半の授業では、戦後の日本租税法の道しるべとなっている米国連邦税法に係る米国の論文や米国の裁判例を輪読することで、比較法学に慣れてもらうこととする。

授業計画

第 1 回	博士論文作成に向けたガイダンス
第 2 回	先行研究の輪読①
第 3 回	先行研究の輪読②
第 4 回	先行研究の輪読③
第 5 回	裁判例の輪読①
第 6 回	裁判例の輪読②
第 7 回	裁判例の輪読③
第 8 回	米国連邦税法の概要、参考文献、裁判例の探し方等
第 9 回	ドイツ租税法の概要、参考文献、裁判例の探し方等
第 10 回	米国連邦税法に係る文献の輪読①
第 11 回	米国連邦税法に係る文献の輪読②
第 12 回	米国連邦税法に係る文献の輪読③
第 13 回	米国連邦税法に係る裁判例の輪読①
第 14 回	米国連邦税法に係る裁判例の輪読②
第 15 回	米国連邦税法に係る裁判例の輪読③
第 16 回	期末レポート

到達目標

1. 自分自身の博士論文のテーマを選定できる、もしくはその方向性を掴める。
2. 博士論文の先行研究のレベルを把握できる。
3. 外国租税法の文献・裁判例に馴染むことができる。

履修上の注意

租税法に係る修士論文を既に作成している受講生を前提に授業を行う。

後半の授業は、英文資料についてのレジュメ作成を行うので、ある程度の英文読解力を有することが前提である。

予習・復習

予習としては、レジュメ作成（自分自身の発表分担当）、レジュメ対象のテキストの該当部分の熟読（発表分担当以外の受講生）。

自分自身の博士論文作成が目標であり、その一助としての授業ゆえ、基本的に復習は不要で、本授業で得た知識や手法を活用し、博士論文の検討・作成に充てていただきたい。

評価方法

レポートもしくは発表資料 70%、授業への積極的参加 30%。

テキスト

指定なし。必要都度、教員が配布する。

授業概要

本講義では、博士前期課程での講義を深化・発展させ、博士論文の水準に必要な高度な知識の習得を目指す。

現実の通貨危機の課題、特にアジア通貨危機とリーマン・ショック後のドル体制の不安定化の問題、中国やインドなど新興国の国際経済での発言力強化、第二次トランプ政権など自国第一主義的な経済政策展開による経済の変化などを踏まえて、基軸通貨のあり方と通貨量の管理の問題を議論する。また授業中、受講大学院生の研究テーマに対応した研究論文について適宜取り上げ博士論文の内容に沿った講義をおこなう予定である。

授業計画

第1回	ガイダンス（この科目で学ぶこと、履修するうえでのルール説明）
第2回	貨幣の価値
第3回	貨幣と社会
第4回	貨幣としての金
第5回	富としての貨幣
第6回	信用貨幣
第7回	政府紙幣
第8回	電子マネー
第9回	貨幣数量説の経世
第10回	貨幣数量説を理解する
第11回	貨幣数量説批判政策としての貨幣管理説
第12回	貨幣管理の諸問題
第13回	国際基軸通貨とシニョレッジ（通貨発行益）の問題点
第14回	国際決済通貨としてのSDR（特別引出権）、バンコール（超国家的通貨）を考える
第15回	地域単一通貨ユーロの形成と問題点
第16回	期末試験

到達目標

本講義では貨幣・通貨問題を中心に、博士前期課程における研究を深化させ、博士論文作成のための高度な思考と分析力を養い、奇を衒わないものの、独創性ある視点から問題を解決する能力を育成することを目標とする。

履修上の注意

自分の問題・関心をもって授業に臨む。自分のテーマを報告する機会を設ける。各授業回ともディスカッションをする。履修生の研究状況によっては適宜、個別に課題を指定する場合がある。

予習・復習

授業中に扱う論文や原典については十分な予習をおこなうことを前提とし、常に自身の研究・論文の構想を計画する。

評価方法

①授業および課題への取り組みとディスカッション・ペーパー（40%）、②レポート（20%）、期末試験（40%）によって総合的に評価する。

テキスト

必携のテキストは用いない。履修生の研究内容、問題意識、関心に応じて、参考書籍・論文を紹介する。

授業概要

この授業では、コーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスに関連した諸問題を勉強します。モジリアーニ・ミラー理論を出発点として、情報の非対称性や各種の制度的制約が存在する場合に、企業の投資の決定と投資に必要な資金の調達に関する問題はどのように決定されるのかを理論的に考察します。また、企業金融と表裏一体の関係にあるコーポレート・ガバナンスの問題に着目し、コーポレート・ガバナンスの多様なメカニズムを理解したうえで、日本的システム、英米のシステムそして東アジア的システムを取り扱った各種の文献を解説します。

授業計画

第1回	オリエンテーション：この授業で学ぶこと
第2回	モジリアーニ・ミラー理論
第3回	最適資本構成の理論
第4回	情報の非対称性とモラル・ハザード
第5回	負債政策とペッキング・オーダー理論
第6回	エージェンシー理論
第7回	株主による経営者のモニタリング
第8回	経営者へのインセンティブ付与
第9回	企業コントロール市場の機能
第10回	系列とメインバンク・システム
第11回	ファミリー・ビジネス
第12回	CSR と ESG
第13回	銀行のガバナンス問題
第14回	法律とファイナンス
第15回	企業金融とコーポレート・ガバナンスの将来展望
第16回	期末レポートの提出

到達目標

- 企業金融、コーポレート・ガバナンス、金融危機、金融規制などの分野で、理論や実証分析に関する代表的な先行研究を読みこなすことができる。
- 同分野で、有意義かつ独自性のある分析ができる。

履修上の注意

受講生は、企業金融論、金融システム論、銀行論、計量経済学などの科目の大学院修士課程レベルの知識を備えていることが必要です。また、この授業では講義と受講生による英語論文の内容報告のハイブリッド形式で進める予定です。

予習・復習

各回の講義で予定されているテーマの概要を事前に理解するとともに、各回の授業終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

期末レポート 50%、報告内容 30%、授業への取り組み姿勢 20%。

テキスト

授業で取り上げる資料や文献等を、その都度紹介、配布します。

授業概要

経済のグローバル化の進展に伴い、世界経済の動向は世界の金融資本市場によって大きく左右されるようになりました。このような状況にあって、どのような原則に基づいて資本が移動するのかの正確な理解が、世界経済の動向を分析、予測するために必要です。したがって、本特論では、国際資本市場の機能と国際資産取引の基本的動機について講義します。「あなたの卵を1つのバスケットに入れるな」という言葉で表されるポートフォリオ分散に焦点を当てて考究します。文献輪読による指導を行います。

授業計画

第1回	貿易による利得3種類
第2回	リスク忌避
第3回	国際資産取引の動機としてのポートフォリオ分散
第4回	国際資産のメニュー：負債（デット）対資本（エクイティ）
第5回	国際資本市場の構造
第6回	オフショアバンキングとオフショア通貨取引
第7回	影の銀行（シャドウバンキング）システム
第8回	銀行破綻の問題
第9回	金融不安に対する政府の安全策
第10回	モラルハザードと「Too Big to Fail（大きすぎてつぶせない）」
第11回	ファイナンスのトリレンマ
第12回	2007年までの規制に関する国際協調
第13回	世界的な金融危機以降の国際規制のイニシアチブ
第14回	ポートフォリオの国際的分散の進展
第15回	異時点間取引の規模・オンショアとオフショアの利率格差
第16回	外国為替市場の効率性

到達目標

- ・世界の金融資本市場が抱える今日的課題を的確に把握し、自分の主張を述べることができる。
- ・世界経済の動向を分析、予測することができる。

履修上の注意

この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の講義を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら修士レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

評価方法

課題レポート100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

- ・教科書名：クルーグマン国際経済学：理論と政策（下巻：金融編）
- ・著者名：P.R.クルーグマン、M.オブストフェルド、M.J.メリッツ著；山形浩生、守岡桜訳
- ・出版社名：丸善出版
- ・出版年月：2017年1月 ISBN：9784621300589 本体 5000円＋税

授業概要

リスクマネジメントの基本概念の理解を前提とし、リスクマネジメントを実際行う上で重要になるリスクシナリオの構築について検討する。リスクシナリオの検討にあたり、環境分析の候補としてレイ・ダリオの『世界秩序の変化に対応するための原則 なぜ国家は興亡するのか』を参照する予定であるが、学生の希望により適宜変更する事ができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	リスクマネジメント概説
第3回	リスクシナリオ構築の考え方
第4回	環境分析
第5回	環境分析2
第6回	仮設定（対象企業、対象期間など）
第7回	シナリオ作成
第8回	シナリオ作成2（優先度）
第9回	金融機関でのストレスシナリオの検討
第10回	自由討論
第11回	シナリオの再評価
第12回	環境分析の再検討
第13回	シナリオの再構築
第14回	シナリオの再構築
第15回	全体総括
第16回	予備

到達目標

リスクマネジメントの前提になるリスクの識別について、環境分析からリスクを識別する基本的な方法を獲得することを目指す。

履修上の注意

講義では、学生の積極的な貢献を期待している。特に環境分析やリスク識別の作業は学生自身の作業により理解が進む点に注意する。

予習・復習

『世界秩序の変化に対処するための原則 なぜ国家は興亡するか』
レイ・ダリオ著 斎藤聖美訳 日経 BP
学生の希望により他のテキストに変更。

評価方法

講義への貢献(50%)とレポート(50%)で評価する。

テキスト

無し

授業概要

急速に変化、発展するヘルスケアサービスを取り巻くヘルスケア産業に関し理解を深め分析する能力を身に付けられるよう指導する。他の産業と比較してヘルスケアサービスの特徴と相違点について理解を深め、どのようなマネジメントが重要であるかについて研究指導する。望ましい健康・医療・介護経営のあり方について研究し、特に昨今の医薬品や医療機器・介護ロボット等の役割の重要性、医療安全や臨床研究も含めた質管理のあり方も含め、現状と課題の抽出を行う。また、保健・医療・福祉・介護各分野の連携および連続性によりヘルスケアサービス提供がなされていることについて理解を深められるよう研究指導する。さらに、ヘルスケアサービスは、基本的には供給側も消費側も人間であるヒューマンサービスが基本であり、人事管理やコミュニケーションも重要な影響要因であることについて研究を発展させる。これらを総合し、自らの関心領域を絞り込み一連の研究を遂行出来るよう指導する。

授業計画

第1回	保健・医療・福祉・介護各分野の特徴	第1回	博士論文テーマの絞りこみ
第2回	ヘルスケアサービス・マネジメント	第2回	博士論文テーマに関するプレゼンテーション
第3回	医療経営・介護経営・健康経営	第3回	英語文献検討（1）
第4回	医薬品・医療機器・介護ロボット業界	第4回	英語文献検討（2）
第5回	課題の抽出および関心領域の絞り込み	第5回	英語検討（3）
第6回	文献検討（1）	第6回	英語検討（4）
第7回	文献検討（2）	第7回	研究デザインの検討
第8回	文献検討（3）	第8回	テーマに必要な文献リスト作成
第9回	関心テーマの設定	第9回	英語文献分析（1）
第10回	研究デザインの検討	第10回	英語文献分析（2）
第11回	テーマに必要な文献リスト作成	第11回	英語文献分析（3）
第12回	文献分析（1）	第12回	英語文献分析（4）
第13回	文献分析（2）	第13回	研究の中間的なとりまとめ
第14回	文献分析（3）	第14回	研究成果の報告
第15回	研究成果報告	第15回	研究成果の見直し
第16回	期末試験	第16回	期末試験

到達目標

- ・ヘルスケアサービス産業についての現状把握と課題の抽出ができる。
- ・医療経営・介護経営・健康経営についての理解を深められる。
- ・研究テーマを深く掘り下げることができる。
- ・英文文献研究をしっかりと行うことができる。

履修上の注意

自分の関心あるテーマについての絞り込みができ、また深く考察できるよう、毎講義前に予習を2時間程度、講義内容の振り返りを習慣化し、講義後は2時間程度の復習をして欲しい。

評価方法

課題の抽出および理解力、文献収集・分析能力等を総合的に評価する。プレゼンテーション20%、レポート課題30%、期末試験50%。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

授業概要

Iで学んだヘルスケアサービスを取り巻く市場について更に理解を深められるよう研究指導する。ヘルスケアコンシューマーの消費行動や意思決定に影響を及ぼす因子抽出と支援、満足度を規定する要因、エンパワメントに必要な要素、情報の質と開示等について多面的に指導する。行政による医療計画を含む医療法や医療・介護保険システムや診療・介護報酬制度などのヘルスケアシステムについても理解を深め、開設主体や診療機能や規模などを考慮に入れ、ベスト・プラクティスを目指すためのマネジメントについて研究指導する。また、医師をはじめとする医療従事者のプロフェッショナリズム、QOL や働き方改革も含め、医療・介護現場の実態についての理解を深めた上で、研究内容を深められるよう指導する。一連の研究を通して、論文作成を行うための指導をする。

授業計画

第1回	ヘルスケアサービス市場の理解	第1回	必要文献の補強
第2回	ヘルスケアコンシューマー行動の理解	第2回	文献報告1
第3回	これまでの研究の整理と研究内容の見直し	第3回	文献報告2
第4回	学術論文テーマの明確化	第4回	学術論文作成1
第5回	学術論文の構成（目次）の作成	第5回	学術論文作成2
第6回	構成に基づく研究報告	第6回	学術論文作成3
第7回	研究報告1	第7回	学術論文作成4
第8回	研究報告2	第8回	学術論文作成5
第9回	研究報告3	第9回	研究内容見直し
第10回	研究報告4	第10回	学術論文作成・報告1
第11回	研究報告5	第11回	学術論文作成・報告2
第12回	ヘルスケアシステムの理解	第12回	学術論文作成・報告3
第13回	ベスト・プラクティスの理解	第13回	学術論文作成・報告4
第14回	研究の見直し	第14回	学術論文作成・報告5
第15回	オリジナリティーについての検討	第15回	研究成果の見直し
第16回	期末レポート試験（中間取りまとめ）	第16回	期末レポート試験（論文骨子作成）

到達目標

- ・ヘルスケアサービスを取り巻く社会においてどのような課題があり、具体的にどのような解決に向けての取り組みが必要であるかについて理解できる。
- ・学術論文作成のプロセスが理解できる。
- ・論文のオリジナリティーを明確にすることができる。
- ・研究デザインの構築をしっかりと行うことができる。
- ・論文作成のためのスキルを身につけることができる。

履修上の注意

自らがもっとも関心のあるテーマについて、学術論文としてまとめあげられるよう、しっかりと研究指導を受けることを求める。

課題ごとに予習・復習各3時間以上を要する。

評価方法

論文作成のプロセスの各点において評価する。
プレゼンテーション 20%、レポート 30%、期末レポート試験 50%。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

授業概要

Ⅱまでで学んだ知識や研究スキルをベースに、国際的な視点からヘルスケアサービスの質について学ぶ。ヘルスケアサービスのグローバル化が進むことによる効果、および新たに生じるリスクについても理解を深められるよう指導する。また医療・介護・健康経営に必要なマネジメント能力とはどのようなものかについても総合的に指導する。学術論文を完成させ、学会発表等を通じて、社会に還元可能なオリジナリティー豊かな学術論文が完成できるよう指導する。国際的な見地から自らの論文を客観視できるよう指導する。

授業計画

第1回	国際的視野からみたヘルスケアサービスの理解	第1回	論文見直し
第2回	海外文献研究1	第2回	論文修正1
第3回	海外文献研究2	第3回	論文修正2
第4回	海外文献研究3	第4回	論文修正3
第5回	博士論文テーマ・目的・方法最終決定	第5回	論文修正4
第6回	既発表論文の見直し	第6回	論文修正5
第7回	学会発表準備1	第7回	論文最終見直し
第8回	学会発表準備2	第8回	論文報告1
第9回	博士論文の構成（目次）の確定	第9回	論文報告2
第10回	文献リスト作成指導	第10回	論文報告3
第11回	論文作成1	第11回	論文報告4
第12回	論文作成2	第12回	論文報告5
第13回	論文作成3	第13回	論文最終とりまとめ
第14回	論文作成4	第14回	批判的検討
第15回	論文作成5	第15回	論文の提出
第16回	期末レポート試験（仮論文完成）	第16回	最終試験（論文発表）

到達目標

- ・学術論文を完成させる。
- ・学術論文作成のスキルが修得できる。
- ・グローバルな視点で研究を遂行する能力が身に付く。
- ・ヘルスケアサービス・マネジメントについて深い理解ができる。

履修上の注意

客観的な視点をもつこと、論理的な思考と整理能力を養えるよう努力すること。
毎日4時間程度の研究に従事する時間の確保をお願いしたい。

評価方法

学術論文作成能力および論文完成度から総合的に評価する。
博士論文作成100%。

テキスト

適宜必要に応じて指示する。

授業概要

私の専門分野は、金融システム、コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、ESG などの理論および実証研究であり、それらの分野における論文作成に必要とされる専門的な知識および実証分析手法を修得します。また、博士後期課程 1 年次の最後には博士論文執筆に向けての計画書を作成します。

授業計画

＜春期＞		＜秋期＞	
第 1 回	ガイダンス：研究指導の概要	第 1 回	金融システムに関する先行研究の読解
第 2 回	先行研究の収集	第 2 回	同上
第 3 回	コーポレート・ファイナンスに関する先行研究の読解	第 3 回	同上
第 4 回	同上	第 4 回	同上
第 5 回	同上	第 5 回	ESG に関する先行研究の読解
第 6 回	同上	第 6 回	同上
第 7 回	同上	第 7 回	同上
第 8 回	同上	第 8 回	同上
第 9 回	コーポレート・ガバナンスに関する先行研究の読解	第 9 回	実証分析手法の修得
第 10 回	同上	第 10 回	同上
第 11 回	同上	第 11 回	同上
第 12 回	同上	第 12 回	同上
第 13 回	同上	第 13 回	研究計画書の検討
第 14 回	同上	第 14 回	同上
第 15 回	同上	第 15 回	同上

到達目標

- 博士論文執筆に向けて、先行研究を十分に理解することができる。
- 自身の論文の問題意識を深めることができる。

履修上の注意

最終的に博士論文を完成させるというのは、膨大な時間と心身両面でのかなりの労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

評価方法

各回の報告 50%、研究計画書の内容 50%。

テキスト

必要な文献は、適宜指示します。

授業概要

博士論文の執筆に関する指導を行います。博士論文は、関連性の深いテーマの下で、4本程度の独立した論文で構成されるのが一般的です。博士後期課程2年次では、2本程度の論文を執筆するとともに、学会や外部のセミナーなどで報告できるようになることが望ましいです。

授業計画

＜春期＞		＜秋期＞	
第1回	第1論文の計画書報告	第1回	第2論文の計画書報告
第2回	第1論文の修正計画書報告	第2回	第2論文の修正計画書報告
第3回	第1論文の作業経過報告	第3回	第2論文の作業経過報告
第4回	同上	第4回	同上
第5回	同上	第5回	同上
第6回	同上	第6回	同上
第7回	同上	第7回	同上
第8回	同上	第8回	同上
第9回	第1論文1次稿の完成と報告	第9回	第2論文1次稿の完成と報告
第10回	第1論文1次稿の問題点の洗い出しと修正	第10回	第2論文1次稿の問題点の洗い出しと修正
第11回	同上	第11回	同上
第12回	第1論文2次稿の完成と報告	第12回	第2論文2次稿の完成と報告
第13回	第1論文2次稿の問題点の洗い出しと修正	第13回	第2論文2次稿の問題点の洗い出しと修正
第14回	同上	第14回	同上
第15回	第1論文の完成と報告	第15回	第2論文の完成と報告

到達目標

- アカデミックに重要な貢献を含んだ学術論文を複数執筆することができる。

履修上の注意

博士論文を執筆するというのは、膨大な時間と心身両面でのかなりの労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

評価方法

各回の報告と進捗状況 50%、論文の完成度合いとその内容 50%。

テキスト

必要な文献は、適宜指示します。

授業概要

博士論文の執筆に関する指導を行います。博士論文は、関連性の深いテーマの下で、4本程度の独立した論文で構成されるのが一般的です。博士後期課程3年次では、博士論文を完成させるとともに、学会報告や査読誌への投稿などができることが望ましいです。

授業計画

＜春期＞		＜秋期＞	
第1回	第3論文の計画書報告	第1回	第4論文の計画書報告
第2回	第3論文の修正計画書報告	第2回	第4論文の修正計画書報告
第3回	第3論文の作業経過報告	第3回	第4論文の作業経過報告
第4回	同上	第4回	同上
第5回	同上	第5回	同上
第6回	同上	第6回	同上
第7回	同上	第7回	第4論文1次稿の完成と報告
第8回	同上	第8回	第4論文1次稿の問題点の洗い出しと修正
第9回	第3論文1次稿の完成と報告	第9回	同上
第10回	第3論文1次稿の問題点の洗い出しと修正	第10回	第4論文2次稿の完成と報告
第11回	同上	第11回	第4論文2次稿の問題点の洗い出しと修正
第12回	第3論文2次稿の完成と報告	第12回	同上
第13回	第3論文2次稿の問題点の洗い出しと修正	第13回	第4論文の完成と報告
第14回	同上	第14回	博士論文の完成と提出
第15回	第3論文の完成と報告	第15回	最終試験の準備

到達目標

- アカデミックに重要な貢献を含んだ博士論文を完成させる。

履修上の注意

博士論文を執筆するというのは、膨大な時間と心身両面でのかなりの労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

評価方法

各回の報告と進捗状況 50%、完成論文の内容 50%。

テキスト

必要な文献は、適宜指示します。

授業概要

博士論文は、先行研究を踏まえた上で、先行研究にはない新規性が成果として求められ、さらに、他国の租税法との比較を踏まえて得られる日本の租税法への示唆と提言も求められる。また、分量的にも修士論文4本分程度に相当するため、テーマに係る個別論文をコツコツ執筆し、最終的にそれらを纏めて仕上げていくのが得策である。ゆえに、一年目はそれらを満足するテーマと比較すべき他国法の選定と基礎研究の蓄積、およびこれらを纏め上げるマトリックスのイメージが作れるように指導を行う。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	ガイダンス	第1回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第2回	問題意識の抽出とテーマイメージ作り	第2回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第3回	テーマに係る先行研究の洗い出し	第3回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第4回	テーマに係る先行研究の洗い出し	第4回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第5回	テーマに係る先行研究の読み込み	第5回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第6回	テーマに係る先行研究の読み込み	第6回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第7回	テーマに係る先行研究の読み込み	第7回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み
第8回	先行研究が引用する参考文献・裁判例抽出	第8回	テーマに係る個別論文のイメージ確認
第9回	先行研究が引用する参考文献・裁判例抽出	第9回	テーマに係る個別論文のイメージ確認
第10回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み	第10回	不足する論点・参考文献等のチェック
第11回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み	第11回	不足する論点・参考文献等のチェック
第12回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み	第12回	不足する論点・参考文献等のチェック
第13回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み	第13回	テーマに係る個別論文計画作成指導
第14回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み	第14回	テーマに係る個別論文計画作成指導
第15回	テーマに係る参考文献・裁判例の読み込み	第15回	テーマに係る個別論文計画作成指導

到達目標

1. テーマに係る先行研究の内容を理解する。
2. テーマに係る個別論文計画を作成する。
3. 個別論文の作成を開始する。

履修上の注意

博士論文は、修士論文と比べ、要求される新規性、研究の質と量は格段にアップする。また、外国法との比較が求められるが、当該外国法についての日本の先行研究の引用だけでは不十分であり、原文にあたることが最低限求められる。このように、相当の労力と自主性が不可欠であることを覚悟して望んでほしい。

評価方法

個別論文計画の内容と、全体の進捗度合いで評価する。

テキスト

指定なし。必要都度、教員が指示する。

授業概要

博士論文は、先行研究を踏まえた上で、先行研究にはない新規性が成果として求められ、さらに、他国の租税法との比較を踏まえて得られる日本の租税法に対する示唆と提言も必要である。また、分量的にも修士論文4本分以上に相当するため、テーマに係る個別論文をコツコツ執筆し、最終的にそれらを纏めて仕上げていくのが得策である。二年目は、選定テーマに係る個別論文を前期と後期各々1本（計2本）完成させるべく指導を行う。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	個別論文1の内容決定	第1回	個別論文2の内容決定
第2回	個別論文1の第一稿執筆指導	第2回	個別論文2の第一稿執筆指導
第3回	個別論文1の第一稿執筆指導	第3回	個別論文2の第一稿執筆指導
第4回	個別論文1の第一稿執筆指導	第4回	個別論文2の第一稿執筆指導
第5回	個別論文1の第一稿執筆指導	第5回	個別論文2の第一稿執筆指導
第6回	個別論文1の第一稿執筆指導	第6回	個別論文2の第一稿執筆指導
第7回	個別論文1の第一稿完成、報告	第7回	個別論文2の第一稿完成、報告
第8回	個別論文1の第一稿の改善事項指導	第8回	個別論文2の第一稿の改善事項指導
第9回	個別論文1の第二稿執筆指導	第9回	個別論文2の第二稿執筆指導
第10回	個別論文1の第二稿執筆指導	第10回	個別論文2の第二稿執筆指導
第11回	個別論文1の第二稿執筆指導	第11回	個別論文2の第二稿執筆指導
第12回	個別論文1の第二稿完成、報告	第12回	個別論文2の第二稿完成、報告
第13回	個別論文1の第二稿の改善事項指導	第13回	個別論文2の第二稿の改善事項指導
第14回	個別論文1の第二稿の改善事項指導	第14回	個別論文2の第二稿の改善事項指導
第15回	個別論文1の完成、報告	第15回	個別論文2の完成、報告

到達目標

テーマに係る個別論文を2本執筆し、完成させる。

履修上の注意

博士論文は、修士論文と比べ、要求される新規性、研究の質と量は格段にアップする。また、外国法との比較が求められるが、当該外国法についての日本の先行研究の引用では検討したことにはならず、原文にあたるのが最低限求められる。このように、相当の労力と自主性が不可欠であることを覚悟して望んでほしい。

評価方法

個別論文の内容と、進捗度合いで評価する。

テキスト

指定なし。必要都度、教員が指示する。

授業概要

博士論文は、先行研究を踏まえた上で、先行研究にはない新規性が成果として求められ、さらに、他国の租税法との比較を踏まえて得られる日本の租税法に対する示唆と提言も必要である。また、分量的にも修士論文4本分以上に相当するため、テーマに係る個別論文をコツコツ執筆し、最終的にそれらを纏めて仕上げていくのが得策である。最終年度は、選定テーマに係る個別論文を前期と後期各々1本(計2本)完成させ、これらを纏めて一つの博士論文に仕上げるべく指導を行う。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	個別論文3の内容決定	第1回	個別論文4の内容決定
第2回	個別論文3の第一稿執筆指導	第2回	個別論文4の第一稿執筆指導
第3回	個別論文3の第一稿執筆指導	第3回	個別論文4の第一稿執筆指導
第4回	個別論文3の第一稿執筆指導	第4回	個別論文4の第一稿執筆指導
第5回	個別論文3の第一稿執筆指導	第5回	個別論文4の第一稿執筆指導
第6回	個別論文3の第一稿執筆指導	第6回	個別論文4の第一稿執筆指導
第7回	個別論文3の第一稿完成、報告	第7回	個別論文4の第一稿完成、報告
第8回	個別論文3の第一稿の改善事項指導	第8回	個別論文4の第一稿の改善事項指導
第9回	個別論文3の第二稿執筆指導	第9回	個別論文4の第二稿執筆指導
第10回	個別論文3の第二稿執筆指導	第10回	個別論文4の第二稿執筆指導
第11回	個別論文3の第二稿執筆指導	第11回	個別論文4の第二稿完成、報告
第12回	個別論文3の第二稿完成、報告	第12回	個別論文4の第二稿改善事項指導
第13回	個別論文3の第二稿の改善事項指導	第13回	博士論文の完成、報告
第14回	個別論文3の第二稿の改善事項指導	第14回	博士論文の提出
第15回	個別論文3の完成、報告	第15回	最終試験

到達目標

1. テーマに係る個別論文を2本執筆し、完成させる。
2. 4本の完成した個別論文を纏め、博士論文に仕上げる。

履修上の注意

博士論文は、修士論文と比べ、要求される新規性、研究の質と量は格段にアップする。また、外国法との比較が求められるが、当該外国法についての日本の先行研究の引用では検討したことにはならず、原文にあたるのが最低限求められる。このように、相当の労力と自主性が不可欠であることを覚悟して望んでほしい。

評価方法

個別論文の進捗状況と内容、および博士論文の内容で評価する。

テキスト

指定なし。必要都度、教員が指示する。

授業概要

博士論文作成のための方法論、基礎知識を修得する。

- 1) 論文テーマに関する問題設定、課題の抽出とテーマの絞り込み
- 2) 基本的な文献収集とその理解
- 3) 論文テーマに沿った先行研究の論点整理

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	受講生の問題意識の確認	第1回	博士論文の構成と作成方法
第2回	論文テーマに関しての大まかな検討	第2回	博士論文の構成と作成方法
第3回	論文テーマに関しての基本文献調査	第3回	論文構成に必要な文献の整理
第4回	基本文献の報告	第4回	文献の検討と報告
第5回	同上	第5回	同上
第6回	同上	第6回	同上
第7回	同上	第7回	同上
第8回	同上	第8回	同上
第9回	論文テーマの絞り込み	第9回	研究の中間的なまとめ
第10回	先行研究の文献リストの作成	第10回	同上
第11回	先行研究の報告	第11回	同上
第12回	同上	第12回	同上
第13回	同上	第13回	同上
第14回	同上	第14回	同上
第15回	研究の報告と論点整理	第15回	研究成果の報告

到達目標

- ・論文構成に必要な論理的思考能力と、先行研究を踏まえた論点の整理ができる能力などを身に付けることを目標とする。

履修上の注意

- ・問題意識のもとに設定する論文テーマに基づいた先行研究などの研究文献を丹念に調査し、学生と学ぶと共に、それに関しての報告ができるようにすること。

評価方法

- 1) 論文及び課題（60%） 2) 報告（30%） 3) 研究姿勢（10%）により総合的に評価する。

テキスト

- ・研究テーマに即して、適宜指示します。

授業概要

学術論文の作成と発表を指導する。この学術論文は、博士論文を提出する前提であるだけでなく、博士論文を構成する重要な論点の一つである。このため、論点の明確化は言うに及ばず、先行研究との関係性を論じることができるように研鑽すること。また、論文構成の妥当性、合理性、そして新規性を意識した研究ができるように指導する。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	学術論文のテーマを明確にする	第1回	論文の作成と報告
第2回	学術論文の構成の作成	第2回	同上
第3回	構成に即しての研究報告	第3回	同上
第4回	同上	第4回	同上
第5回	同上	第5回	同上
第6回	同上	第6回	同上
第7回	同上	第7回	研究の見直し
第8回	同上	第8回	論文の作成と報告
第9回	同上	第9回	同上
第10回	研究の見直し	第10回	同上
第11回	研究の報告	第11回	同上
第12回	同上	第12回	同上
第13回	同上	第13回	同上
第14回	同上	第14回	学術論文の報告と指導
第15回	研究成果の報告	第15回	学術論文の報告と指導

到達目標

- 論文構成に必要な論理的思考力と、先行研究を踏まえた論点の整理ができる能力などを身につけること。さらに、論文内容が独自性と新規性を備えるために必要な思考能力も身に付けることを目標とする。

履修上の注意

- 学術論文を作成するための研鑽と報告を適宜行うこと。

評価方法

1】論文及び課題（60%）2】報告（30%）3】研究姿勢（10%）により総合的に評価する。

テキスト

- 研究テーマに即して、適宜指示する。

授業概要

2年次に発表した学術論文を踏まえ、博士論文のテーマと論点を再確認すると共に、先行研究の再確認を行ったうえでの論文整理を行い、オリジナリティや新規性のある論文の作成ができているか確認し指導する。また、この博士論文の作成を通じて得た知見を活かした更なる研究に踏み出すことができるように指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	博士論文のテーマと論点の再確認	第1回	論文の構成と報告
第2回	論文の研究手法の再確認	第2回	同上
第3回	先行研究の再確認と補強	第3回	同上
第4回	文献報告	第4回	同上
第5回	同上	第5回	同上
第6回	同上	第6回	中間報告会の資料作成
第7回	中間報告会の資料作成	第7回	同上
第8回	中間報告会の資料作成	第8回	論文の作成と報告
第9回	博士論文の構成の確定	第9回	同上
第10回	論文作成と報告	第10回	同上
第11回	同上	第11回	同上
第12回	同上	第12回	博士論文の提出
第13回	同上	第13回	残された課題の整理
第14回	同上	第14回	最終試験の準備
第15回	研究のまとめ	第15回	最終試験の準備

到達目標

- ・論理的な思考能力の充実と、独自性と新規性を備えている論文を作成するだけでなく、次なる研究に広がるような研究能力を身に付けることを目標とする。

履修上の注意

- ・論文作成の指導に頼ることなく、自主的な研究の取り組みによる研鑽を積み重ねるという姿勢が求められる。

評価方法

1) 博士論文及び課題（60%） 2) 報告（30%） 3) 研究姿勢（10%）により総合的に評価する。

テキスト

- ・研究テーマに即して、適宜指示する。

授業概要

博士論文を完成させるための準備を進める。特に次のような指導する。

- 1 論文テーマの設定（基本的には本人の研究計画書による）の明確化。
- 2 テーマの問題設定のための既存研究のサーベイと論点整理。
- 3 論点ごとの研究報告。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	受講生の問題意識の把握	第1回	博士論文の構成の作成(1)
第2回	テーマ関連の文献リストの作成	第2回	博士論文の構成の作成(2)
第3回	基本的な文献の調査と報告(1)	第3回	博士論文の構成の作成(3)
第4回	基本的な文献の調査と報告(2)	第4回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(1)
第5回	基本的な文献の調査と報告(3)	第5回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(2)
第6回	基本的な文献の調査と報告(4)	第6回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(3)
第7回	基本的な文献の調査と報告(5)	第7回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(4)
第8回	論文テーマの絞り込み	第8回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(5)
第9回	テーマ関連の報告と検討(1)	第9回	研究の中間的なとりまとめ(1)
第10回	テーマ関連の報告と検討(2)	第10回	研究の中間的なとりまとめ(2)
第11回	テーマ関連の報告と検討(3)	第11回	研究の中間的なとりまとめ(3)
第12回	テーマ関連の報告と検討(4)	第12回	研究の中間的なとりまとめ(4)
第13回	テーマ関連の報告と検討(5)	第13回	研究の中間的なとりまとめ(5)
第14回	テーマ関連の報告と検討(6)	第14回	研究の中間的なとりまとめ(6)
第15回	研究成果の報告	第15回	研究成果の報告・討論

到達目標

論文作成に関連する先行研究を熟知し、必要な文献を整理する。
博士論文テーマの中間的なとりまとめを行う。

履修上の注意

自ら課題に対して問題内容の明確化に努め、研究文献に対する批判力を養うこと。
自ら積極的に課題を設定し調査研究を行うこと。

評価方法

レポート報告（60%）、講義中の議論（40%）によって総合的に判定する。

テキスト

学生の研究テーマに応じて指示する。

授業概要

研究の進捗状況を踏まえて、博士論文の前提となる学術論文（最終論文の一部を構成する論文）を公刊誌に掲載発表するための研究指導を行う。論文テーマの再吟味（適切性など）、理論の整合性の検討、文献サーベイあるいは実証分析の妥当性などを精査する。また、学会やワークショップに参加し、研究成果を発信していく。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	学術論文テーマの明確化	第1回	論文の作成・報告・討論(1)
第2回	テーマ関連の文献収集	第2回	論文の作成・報告・討論(2)
第3回	主要な論点毎の小論文の作成(1)	第3回	論文の作成・報告・討論(3)
第4回	主要な論点毎の小論文の作成(2)	第4回	論文の作成・報告・討論(4)
第5回	主要な論点毎の小論文の作成(3)	第5回	論文の作成・報告・討論(5)
第6回	主要な論点毎の小論文の作成(4)	第6回	論文の作成・報告・討論(6)
第7回	主要な論点毎の小論文の作成(5)	第7回	論文の作成・報告・討論(7)
第8回	主要な論点毎の小論文の作成(6)	第8回	研究報告
第9回	主要な論点毎の小論文の作成(7)	第9回	論文の構成・検討・修正(1)
第10回	主要な論点毎の小論文の作成(8)	第10回	論文の構成・検討・修正(2)
第11回	研究の見直し	第11回	見直し後の論文の作成・報告(1)
第12回	文献報告(1)	第12回	見直し後の論文の作成・報告(2)
第13回	文献報告(2)	第13回	見直し後の論文の作成・報告(3)
第14回	文献報告(3)	第14回	見直し後の論文の作成・報告(4)
第15回	研究成果の報告	第15回	研究成果の報告

到達目標

- ・博士論文提出の前提となる学術論文の提出。
- ・論文のオリジナリティの明確化。

履修上の注意

論文作成の進捗ごとに緻密な研究指導を受けること。

評価方法

博士論文を含め学術論文の基本的要件としてのルールを守って論文を執筆してきたかどうかについて評価する。

テキスト

学生の研究テーマに応じて指示する。

授業概要

テーマをさらに発展させ、深化させて、博士論文としてオリジナリティを十分明確化し、学術論文としての成果あるものとなるよう研究指導する。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	博士論文のテーマの最終的確定	第1回	論文作成・報告(1)
第2回	既発表論文の補強点の明確化	第2回	論文作成・報告(2)
第3回	必要文献の見直し	第3回	論文作成・報告(3)
第4回	文献報告(1)	第4回	論文作成・報告(4)
第5回	文献報告(2)	第5回	論文作成・報告(5)
第6回	文献報告(3)	第6回	中間報告会資料作成
第7回	中間報告会用資料作成	第7回	中間報告会資料作成
第8回	同上	第8回	論文作成・報告(1)
第9回	論文作成・報告(1)	第9回	論文作成・報告(2)
第10回	論文作成・報告(2)	第10回	論文作成・報告(3)
第11回	論文作成・報告(3)	第11回	論文作成・報告(4)
第12回	論文作成・報告(4)	第12回	論文作成・報告(5)
第13回	論文作成・報告(5)	第13回	論文の提出
第14回	論文作成・報告(6)	第14回	最終試験準備
第15回	研究成果の報告	第15回	最終試験準備

到達目標

- ・博士論文の完成
- ・自立した研究者の育成

履修上の注意

- ・自立した研究者としての自覚を持つこと

評価方法

博士論文作成プロセスを通して、論文作成能力を評価する。 研究倫理および研究者としての自立度を評価する。

テキスト

学生の研究テーマに応じて指示する。

授業概要

博士論文作成の第一段階として論文の内容決定と材料準備を以下の通り指導します。

- ①論文テーマを決定し、研究内容を絞り込みます。
- ②上記のための文献調査・報告・議論に取り組むこと、必要な分析手法を習得することについて指導します。
- ③先行研究を十分に調査して、研究のアウトラインを決定し、研究計画書を完成するように指導します。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	学生の問題意識の確認	第1回	先行研究の報告、確認、議論
第2回	論文テーマの初期検討	第2回	先行研究の報告、確認、議論
第3回	論文テーマの初期検討	第3回	先行研究の報告、確認、議論
第4回	文献調査の報告、確認、議論	第4回	先行研究の報告、確認、議論
第5回	文献調査の報告、確認、議論	第5回	先行研究の報告、確認、議論
第6回	文献調査の報告、確認、議論	第6回	先行研究の報告、確認、議論
第7回	論文テーマの2次検討	第7回	論点整理と研究内容決定
第8回	論文テーマの2次検討	第8回	論点整理と研究内容決定
第9回	文献調査の報告、確認、議論	第9回	論文構成の検討
第10回	文献調査の報告、確認、議論	第10回	論文構成の検討
第11回	文献調査の報告、確認、議論	第11回	分析方法の検討
第12回	論文テーマの決定	第12回	分析方法の検討
第13回	論文テーマの決定	第13回	研究計画書作成の準備
第14回	初期的な論点整理と研究内容確認	第14回	研究計画書作成の準備
第15回	初期的な論点整理と研究内容確認	第15回	研究計画書作成

到達目標

博士論文のテーマ、論点、研究内容、論文構成を明確化して、研究計画書を作成します。

履修上の注意

博士論文に取り組むことを十分認識して、主体的に取り組んでください。

予習・復習

多くの文献や先行研究に取り組んで、各回での指示を必ず次回までに完了してください。

評価方法

各回の報告・議論の内容 70%と研究計画書の完成度 30%により総合的に評価します。

テキスト

論文テーマにより変わりますので、都度指示します。

授業概要

博士論文作成の第二段階として、論文の第一稿完成を目指して以下の通り指導します。

- ①論文の各構成要素を初期的に完成させて論文全体の構成構築を進めるように、議論と指導をおこないます。
- ②学会での報告や論文投稿をおこなうよう、準備とレビューをおこないます。
- ③論文の第一稿を完成できるように、報告を徹底してもらい確認・議論により進めます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	論文作成の報告、議論	第1回	論文作成の報告、議論
第2回	論文作成の報告、議論	第2回	論文作成の報告、議論
第3回	論文作成の報告、議論	第3回	論文作成の報告、議論
第4回	論文作成の報告、議論	第4回	論文作成の報告、議論
第5回	論文作成の報告、議論	第5回	論文作成の報告、議論
第6回	論文作成の報告、議論	第6回	学会報告、学術誌への論文投稿の確認
第7回	論文作成の報告、議論	第7回	論文作成の報告、議論
第8回	学会報告、学術誌への論文投稿の確認	第8回	論文作成の報告、議論
第9回	論文作成の報告、議論	第9回	論文作成の報告、議論
第10回	論文作成の報告、議論	第10回	論文作成の報告、議論
第11回	論文作成の報告、議論	第11回	論文作成の報告、議論
第12回	論文作成の報告、議論	第12回	論文構成の確認、議論
第13回	論文作成の報告、議論	第13回	論文構成の確認、議論
第14回	各構成要素完成度の確認、議論	第14回	博士論文第一稿作成、確認、議論
第15回	各構成要素完成度の確認、議論	第15回	博士論文第一稿作成、確認、議論

到達目標

- ・博士論文第一稿を完成させます。
- ・学会発表と論文投稿をそれぞれ実行します。

履修上の注意

博士論文に取り組むことを十分認識して、主体的に取り組んでください。

予習・復習

多くの文献や先行研究に取り組んで、各回での指示を必ず次回までに完了してください。

評価方法

各回の報告・議論の内容 70%と博士論文第一稿 30%の完成度により総合的に評価します。

テキスト

論文テーマにより変わりますので、都度指示します。

授業概要

博士論文作成の最終段階として、論文完成と最終試験通過を目指して以下の通り指導します。

①論文の完成度を高めるべく、議論と指導をおこないます。後期初までの第二稿の完成を支援します。

②学会での報告や論文投稿をおこなうよう、準備とレビューを支援します。

③論文を完成させ、最終試験通過を目指して、後期には論文の完成度を高めるよう進めます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	論文作成の報告、議論	第1回	博士論文第二稿作成、確認、議論
第2回	論文作成の報告、議論	第2回	博士論文第二稿作成、確認、議論
第3回	論文作成の報告、議論	第3回	論文作成の報告、議論
第4回	論文作成の報告、議論	第4回	論文作成の報告、議論
第5回	論文作成の報告、議論	第5回	論文作成の報告、議論
第6回	論文作成の報告、議論	第6回	論文作成の報告、議論
第7回	学会報告、学術誌への論文投稿の確認	第7回	論文作成の報告、議論
第8回	学会報告、学術誌への論文投稿の確認	第8回	論文作成の報告、議論
第9回	論文作成の報告、議論	第9回	論文の章別最終確認
第10回	論文作成の報告、議論	第10回	論文の章別最終確認
第11回	論文作成の報告、議論	第11回	論文全体の最終確認
第12回	論文作成の報告、議論	第12回	論文全体の最終確認
第13回	論文作成の報告、議論	第13回	論文の完成確認
第14回	学会報告、学術誌への論文投稿の確認	第14回	最終試験準備
第15回	学会報告、学術誌への論文投稿の確認	第15回	最終試験準備

到達目標

- ①博士論文第二稿の完成
- ②学会発表、学術誌への投稿完了
- ③博士論文の完成と最終試験合格

履修上の注意

相当の負荷がかかる局面であり、スケジュールの遅れは致命的になることを覚悟して取り組んでください。

予習・復習

各回での指示を必ず次回までに完了してください。

評価方法

博士論文完成までのプロセス 30%と論文の完成度 70%で評価します。

テキスト

論文テーマにより変わりますので、都度指示します。

授業概要

〈特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通〉 博士後期課程の大学院生に、博士論文作成に向けて、学会での報告、学術雑誌等への論文投稿を含め、総合的に研究指導する。研究・論文の主領域は、交通事業・観光事業・まちづくりの経済学、交通政策、公民連携（PPP：Public-Private Partnership）である。なお、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで履修生に求めるレベルは異なる。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	ガイダンス・前年度のふりかえり	第1回	問題意識に基づくアウトライン指導(1)
第2回	今年度の研究計画（学会報告・論文投稿等）の報告・議論(1)	第2回	問題意識に基づくアウトライン指導(2)
第3回	今年度の研究計画（学会報告・論文投稿等）の報告・議論(2)	第3回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(1)
第4回	問題意識に基づくアウトライン指導(1)	第4回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(2)
第5回	問題意識に基づくアウトライン指導(2)	第5回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(3)
第6回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(1)	第6回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(4)
第7回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(2)	第7回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(5)
第8回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(3)	第8回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(6)
第9回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(4)	第9回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(7)
第10回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(5)	第10回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(8)
第11回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(6)	第11回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(9)
第12回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(7)	第12回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(9)
第13回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(8)	第13回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(10)
第14回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(9)	第14回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(11)
第15回	長期休業中の研究行程表を検討する(1)	第15回	博士論文のふりかえり、次年度の研究計画(1)
第16回	長期休業中の研究行程表を検討する(2)	第16回	次年度の研究計画(2)

到達目標

博士論文を執筆し、自身の問題意識や仮説に基づき、学会発表、学術雑誌等への論文・研究ノート投稿、ディスカッション・ペーパーなどの準備、作成、公表（発表）がひとりで行えるようになる。

履修上の注意

自立した研究者となるよう常に意識し、十分な事前準備と、事後の復習を必要とする。

予習・復習

自立した研究者となるよう常に意識し、十分な事前準備と、事後の復習を必要とする。具体的には、履修生自身が何を準備し、どう議論をふり返り、研究内容や論文執筆・学会報告、博士論文に活かしていくか、自律的に予習・復習する。

評価方法

〈特別研究指導Ⅰ・Ⅱ共通〉 博士論文を含め、学術論文の基本的要件（研究テーマの問題設定、学術的意味、新規性、オリジナリティ、先行研究検索など）を守って紀要論文などを執筆してきたかどうか（50%）、研究者のタマゴとして最低年一回の学生会員として学会での研究報告ができたか（50%）、評価する（計100%）。

〈特別研究指導Ⅲ〉 学術論文の基本的要件（論理構成、仮説設定と分析手法、仮説と結論の整合性など）を守って、博士論文を執筆し、博士論文提出後の学位論文発表会で口頭試問に答えられ適切な議論ができたかを評価する（100%）。

テキスト

必携のテキストは用いない。履修生自ら読むべき文献・論文を探索する（指導教員はそのサポートに徹する）。

授業概要

論文のテーマを設定し、研究方法について考察し、先行研究について分析するための指導をする。
そのために、受講者による発表と教員との議論を厳密に行う。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	ガイダンス	第1回	論文の各章の報告
第2回	論文の研究テーマの報告	第2回	論文の各章の報告
第3回	論文の研究テーマの報告	第3回	論文の各章の報告
第4回	論文の研究テーマの報告	第4回	論文の各章の報告
第5回	論文の研究テーマの報告	第5回	論文の各章の報告
第6回	論文の研究テーマの設定	第6回	論文の各章の報告
第7回	研究アプローチに関する指導	第7回	論文の再検討
第8回	研究アプローチに関する指導	第8回	論文の再検討
第9回	論文テーマに基づく先行研究分析	第9回	論文の再検討
第10回	論文テーマに基づく先行研究分析	第10回	論文の再検討
第11回	論文テーマに基づく先行研究分析	第11回	論文の再検討
第12回	論文テーマに基づく先行研究分析	第12回	論文の修正
第13回	論文の構成	第13回	論文の修正
第14回	論文の構成	第14回	論文の報告
第15回	論文の報告	第15回	論文の報告

到達目標

博士論文執筆のための基本文献の収集と分析、研究方法についての理解、博士論文テーマの方向性の設定

履修上の注意

綿密な文献分析を求める。

評価方法

先行研究と研究方法についての理解度（60％）と研究テーマの独創性（40％）

テキスト

指定しない

授業概要

博士論文のテーマの再確認・論文の構成の検討・各章の吟味、等々を行う。
 研究アプローチ・先行文献の分析の妥当性を検討する。
 妥当な研究テーマを設定し、論文の全体像を提示することができるよう指導する。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	研究テーマの確認	第1回	論文の前半部分の報告
第2回	研究の方向性の検討	第2回	論文の前半部分の報告
第3回	研究の進捗および予定の確認	第3回	論文の前半部分の報告
第4回	研究テーマの報告	第4回	論文の前半部分の報告
第5回	研究テーマの報告	第5回	論文の前半部分の報告
第6回	先行研究の分析・報告	第6回	論文の前半部分の報告
第7回	先行研究の分析・報告	第7回	論文の後半部分の報告
第8回	先行研究の分析・報告	第8回	論文の後半部分の報告
第9回	論文構成の検討	第9回	論文の後半部分の報告
第10回	論文構成の検討	第10回	論文の後半部分の報告
第11回	論文構成の検討	第11回	論文の後半部分の報告
第12回	序論部分の報告	第12回	論文の後半部分の報告
第13回	序論部分の報告	第13回	論文の全体を報告
第14回	序論部分の報告	第14回	論文の全体を報告
第15回	前期の総括	第15回	論文の全体を報告

到達目標

妥当な研究テーマを設定し、論文の構成を検討し、論文の全体像をまとめ上げる。

履修上の注意

論文執筆のために先行文献を徹底して分析し、議論し、検討することを求める。

評価方法

論文の進捗状況（70％）と研究姿勢（30％）

テキスト

適宜指示する

授業概要

博士論文の執筆と報告を中心に指導を行う。
論文のテーマ・構成・各章の内容について再検討し、最終的な論文を作成する。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	論文のテーマ・方向性・進捗・今後の予定を確認	第1回	各章の執筆と報告
第2回	研究テーマの再検討	第2回	各章の執筆と報告
第3回	研究テーマの再検討	第3回	各章の執筆と報告
第4回	研究テーマの確定	第4回	各章の執筆と報告
第5回	論文構成の再検討	第5回	各章の執筆と報告
第6回	論文構成の再検討	第6回	論文発表
第7回	論文構成の確定	第7回	各章の執筆と報告
第8回	各章の執筆と報告	第8回	各章の執筆と報告
第9回	各章の執筆と報告	第9回	各章の執筆と報告
第10回	各章の執筆と報告	第10回	各章の執筆と報告
第11回	各章の執筆と報告	第11回	各章の執筆と報告
第12回	各章の執筆と報告	第12回	完成論文の提出
第13回	各章の執筆と報告	第13回	完成論文の発表
第14回	各章の執筆と報告	第14回	完成論文の最終修正
第15回	論文発表	第15回	最終試験の準備

到達目標

博士論文の完成あるいは完成に向けた準備を行う。

履修上の注意

論文の執筆と報告を徹底して行う。

評価方法

論文の完成度（90％）と研究姿勢（10％）

テキスト

適宜指示する

授業概要

経営学の古典から最新の文献や学術論文に触れ、経営学研究の特徴や理論について議論します。
また、受講生の問題意識から、先行研究を幅広くおこない、自分の研究の意義や位置づけ、具体的な
リサーチクエスションの設定をします。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	ガイダンス	第1回	ガイダンス
第2回	輪読①	第2回	研究の背景・問題意識①
第3回	輪読②	第3回	研究の背景・問題意識②
第4回	輪読③	第4回	学術論文を読む①
第5回	輪読④	第5回	学術論文を読む②
第6回	輪読⑤	第6回	学術論文を読む③
第7回	輪読⑥	第7回	学術論文を読む④
第8回	輪読⑦	第8回	学術論文を読む⑤
第9回	輪読⑧	第9回	研究目的についてディスカッション
第10回	輪読⑨	第10回	研究テーマの設定①
第11回	輪読⑩	第11回	研究テーマの設定②
第12回	経営学研究の方法論①	第12回	リサーチクエスションの設定①
第13回	経営学研究の方法論②	第13回	リサーチクエスションの設定②
第14回	経営学研究の方法論③	第14回	リサーチクエスションの設定③
第15回	経営学研究の方法論④	第15回	まとめ

到達目標

自分の研究の位置づけや意義を説明できる

履修上の注意**評価方法**

課題・レジュメの内容と議論への貢献により評価します

テキスト

受講生の研究テーマを勧案し決めます。

授業概要

研究テーマを絞り、学会報告の準備をします。博士論文執筆のための準備を進めます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	ガイダンス	第1回	ガイダンス
第2回	研究目的についてディスカッション	第2回	学術論文を読む①
第3回	先行研究調査・発表①	第3回	学術論文を読む②
第4回	先行研究調査・発表②	第4回	学術論文を読む③
第5回	先行研究調査・発表③	第5回	学術論文の執筆①
第6回	先行研究調査・発表④	第6回	学術論文の執筆②
第7回	先行研究調査・発表⑤	第7回	学術論文の執筆③
第8回	方法論の検討・決定①	第8回	学術論文の執筆④
第9回	方法論の検討・決定②	第9回	学術論文の執筆⑤
第10回	方法論の検討・決定③	第10回	学術論文の執筆⑥
第11回	データの収集・分析①	第11回	学術論文の執筆⑦
第12回	データの収集・分析②	第12回	博士論文の構成の検討①
第13回	データの収集・分析③	第13回	博士論文の構成の検討②
第14回	学会報告の準備①	第14回	博士論文の執筆①
第15回	学会報告の準備②	第15回	博士論文の執筆②

到達目標

自分の研究の位置づけや意義を説明できる。
博士論文の研究テーマで学会報告と学術論文執筆をおこなう。

履修上の注意

博士論文の研究テーマで学会報告と学術論文執筆をおこないます。研究に十分な時間を確保するようにしてください。

評価方法

課題・レジュメの内容と議論への貢献により評価します

テキスト

受講生の研究テーマを勘案し決めます。

授業概要

経営学に関する博士論文を執筆・完成を目指します。十分な先行研究とデータをもとに議論された博士論文を執筆できるよう研究指導します。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	ガイダンス	第1回	博士論文の構成の祭再検討①
第2回	リサーチクエスションの再検討	第2回	博士論文の構成の再検討②
第3回	方法論の検討・決定	第3回	博士論文の執筆①
第4回	先行研究のまとめ①	第4回	博士論文の執筆②
第5回	先行研究のまとめ②	第5回	博士論文の執筆③
第6回	先行研究のまとめ③	第6回	博士論文の執筆④
第7回	データの収集・分析①	第7回	博士論文の執筆⑤
第8回	データの収集・分析②	第8回	博士論文の執筆⑥
第9回	データの収集・分析③	第9回	博士論文の執筆⑦
第10回	博士論文の執筆①	第10回	博士論文の執筆⑧
第11回	博士論文の執筆②	第11回	博士論文の執筆⑨
第12回	博士論文の執筆③	第12回	博士論文の執筆⑩
第13回	博士論文の執筆④	第13回	博士論文の最終修正①
第14回	博士論文の執筆⑤	第14回	博士論文の最終修正②
第15回	博士論文の執筆⑥	第15回	博士論文の完成

到達目標

博士論文を完成させる。

履修上の注意

研究に十分な時間を確保するようにしてください。

評価方法

博士論文への取り組みを中心に総合的に評価します

テキスト

必要に応じて、適宜紹介します。

授業概要

前期は、データを見つつ文献輪読を通じて世界の金融資本市場の仕組みを基礎から指導する。また、リスクを把握し管理する必要性が増してきているため、リスクの基礎も前期の終わりから後期のはじめにかけて指導する。後期は、研究テーマの決定および研究計画の作成を中心に指導を行う。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	ガイダンス	第1回	99%VaR の計算
第2回	世界の名目 GDP と世界貿易	第2回	リスク感応度の計算
第3回	国際金融取引：直接投資	第3回	受講生の関心のありかを探る(1)
第4回	国際金融取引：対外銀行貸出	第4回	受講生の関心のありかを探る(2)
第5回	国際金融取引：為替・対外証券取引	第5回	受講生の関心のありかを探る(3)
第6回	資本移動と途上国の経済発展	第6回	研究テーマの選定：文献渉猟報告(1)
第7回	アジア危機	第7回	研究テーマの選定：文献渉猟報告(2)
第8回	金融リスクのグローバル管理	第8回	研究テーマの選定：文献渉猟報告(3)
第9回	経済のファンダメンタルズ：主要国	第9回	研究テーマの決定(1)
第10回	経済のファンダメンタルズ：新興国	第10回	研究テーマの決定(2)
第11回	資本の流入：利子率	第11回	研究テーマの決定(3)
第12回	資本の流入：透明性の向上	第12回	研究に関する構想：報告(1)
第13回	資本の流入：健全性の回復	第13回	研究に関する構想：報告(2)
第14回	リスクの評価指標	第14回	研究に関する構想：報告(3)
第15回	VaR の概念と定義	第15回	研究計画の報告(1)
第16回	ボラティリティの計算	第16回	研究計画の報告(2)

到達目標

- ・世界の金融資本市場が抱える今日的課題を的確に把握し、自分の主張を述べることができる。
- ・世界経済の動向を分析、予測することができる。

履修上の注意

この授業は、PBL (Project Based Learning) を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

評価方法

レポート報告 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

- ・参考書名：Money and Capital Markets: Financial Institutions and Instruments in a Global Marketplace, Ninth Edition
- ・著者名：Peter S. Rose
- ・出版社名：McGraw-Hill Education・出版年月：2005年4月 ISBN：9780071116398

授業概要

受講生各自の研究テーマおよび研究計画に沿った研究指導を行う。前期は、先行研究のサーベイを中心に指導する。後期は、先行研究の批判的考察を通じて「Something New（何か新しいこと）」が発見できるように指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	研究計画の報告(3)	第1回	先行研究：批判的考察(1)
第2回	アウトライン：報告(1)	第2回	先行研究：批判的考察(2)
第3回	アウトライン：報告(2)	第3回	先行研究：批判的考察(3)
第4回	アウトライン：報告(3)	第4回	先行研究：批判的考察(4)
第5回	アウトラインの階層：細分化報告(1)	第5回	先行研究：批判的考察(5)
第6回	アウトラインの階層：細分化報告(2)	第6回	先行研究：批判的考察(6)
第7回	アウトラインの階層：細分化報告(3)	第7回	先行研究：批判的考察(7)
第8回	参照文献リスト：提出(1)	第8回	博士論文の構成：報告(1)
第9回	参照文献リスト：提出(2)	第9回	博士論文の構成：報告(2)
第10回	参照文献リスト：提出(3)	第10回	博士論文の構成：報告(3)
第11回	先行研究：サーベイ報告(1)	第11回	博士論文の構成：報告(4)
第12回	先行研究：サーベイ報告(2)	第12回	論文作成経過：報告(1)
第13回	先行研究：サーベイ報告(3)	第13回	論文作成経過：報告(2)
第14回	先行研究：サーベイ報告(4)	第14回	論文作成経過：報告(3)
第15回	先行研究：サーベイ報告(5)	第15回	論文作成経過：報告(4)
第16回	先行研究：サーベイ報告(6)	第16回	博士論文の構成：再確認

到達目標

- ・世界の金融資本市場が抱える今日的課題を的確に把握し、自分の主張を述べることができる。
- ・世界経済の動向を分析、予測することができる。

履修上の注意

この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

評価方法

レポート報告 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

受講生の研究テーマに即して、適宜必要なテキストを取り上げる。

授業概要

受講生各自の研究テーマおよび研究計画に沿った研究指導を行う。特に、「Something New（何か新しいこと）」に焦点が当たる博士論文の構成およびプレゼンテーションになるよう指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第1回	博士論文の草稿：提出	第1回	博士論文の草稿：再提出
第2回	「Something New」の明確化	第2回	博士論文の草稿：体裁の修正(5)
第3回	博士論文の草稿：体裁の修正(1)	第3回	博士論文の草稿：体裁の修正(6)
第4回	博士論文の草稿：体裁の修正(2)	第4回	博士論文の草稿：体裁の修正(7)
第5回	博士論文の草稿：体裁の修正(3)	第5回	中間報告会：プレゼン練習(4)
第6回	博士論文の草稿：体裁の修正(4)	第6回	中間報告会：プレゼン練習(5)
第7回	中間報告会：プレゼン練習(1)	第7回	中間報告会：プレゼン練習(6)
第8回	中間報告会：プレゼン練習(2)	第8回	中間報告会：リフレクション(3)
第9回	中間報告会：プレゼン練習(3)	第9回	中間報告会：リフレクション(4)
第10回	中間報告会：リフレクション(1)	第10回	博士論文の部分的修正：報告(1)
第11回	中間報告会：リフレクション(2)	第11回	博士論文の部分的修正：報告(2)
第12回	参考文献リスト：再提出	第12回	博士論文の部分的修正：報告(3)
第13回	先行研究：サーベイ追加報告(1)	第13回	博士論文の完成稿：提出
第14回	先行研究：サーベイ追加報告(2)	第14回	最終試験：準備(1)
第15回	先行研究：批判的考察(8)	第15回	最終試験：準備(2)
第16回	先行研究：批判的考察(9)	第16回	最終試験：準備(3)

到達目標

- ・世界の金融資本市場が抱える今日的課題を的確に把握し、自分の主張を述べることができる。
- ・世界経済の動向を分析、予測することができる。

履修上の注意

この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

評価方法

博士論文 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

受講生の研究テーマに即して、適宜必要なテキストを取り上げる。

授業概要

原則博士論文の執筆は日本語で行います。博士論文を執筆する上での基礎を固めます。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	研究テーマ設定に関する議論①	第2回	研究進捗状況に関する報告⑦
第3回	研究テーマ設定に関する議論②	第3回	研究進捗状況に関する報告⑧
第4回	研究テーマ設定に関する議論③	第4回	学術誌への論文投稿のための準備①
第5回	研究テーマ設定に関する議論④	第5回	学術誌への論文投稿のための準備②
第6回	研究テーマ設定に関する議論⑤	第6回	学術誌への論文投稿のための準備③
第7回	研究テーマに関する文献と理論の検討①	第7回	学術誌へ投稿する論文の内容確認①
第8回	研究テーマに関する文献と理論の検討②	第8回	学術誌へ投稿する論文の内容確認②
第9回	研究進捗状況に関する報告①	第9回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告①
第10回	研究テーマに関する文献と理論の検討③	第10回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告②
第11回	研究テーマに関する文献と理論の検討④	第11回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告③
第12回	研究進捗状況に関する報告②	第12回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告④
第13回	研究テーマに関する文献と理論の検討⑤	第13回	研究進捗状況に関する報告⑨
第14回	研究テーマに関する文献と理論の検討⑥	第14回	研究進捗状況に関する報告⑩
第15回	中間報告	第15回	中間報告

到達目標

①博士論文のテーマを設定し、②学術誌への投稿準備を完成させる。

履修上の注意

博士課程の大学院生らしく、真摯に研究活動に取り組んでください。博士論文の執筆において、指導教員とのコミュニケーションは最重要です。こまめに連絡を取りましょう。

評価方法

博士論文への取り組みによって評価します（100%）。

テキスト

特に指定しません。

授業概要

初年次で設定した研究テーマに対して、学術論文の執筆の他に学会での報告ができることを目標にします。博士論文の執筆に向け、構成、スケジュールの確認を行いながら進めます。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	研究進捗状況に関する報告①	第2回	研究進捗状況に関する報告⑦
第3回	研究進捗状況に関する報告②	第3回	研究進捗状況に関する報告⑧
第4回	学術誌への投稿状況の確認①	第4回	学術誌への論文投稿のための準備①
第5回	研究進捗状況に関する報告③	第5回	学術誌への論文投稿のための準備②
第6回	研究進捗状況に関する報告④	第6回	学術誌への論文投稿のための準備③
第7回	学会報告に向けた準備①	第7回	学術誌へ投稿する論文の内容確認①
第8回	学会報告に向けた準備②	第8回	学術誌へ投稿する論文の内容確認②
第9回	学会報告に向けた準備③	第9回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告①
第10回	研究進捗状況に関する報告⑤	第10回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告②
第11回	研究進捗状況に関する報告⑥	第11回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告③
第12回	学術誌への投稿状況の確認②	第12回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告④
第13回	学会報告に向けた準備③	第13回	博士論文の構成確認①
第14回	学会報告に向けた準備④	第14回	博士論文の構成確認②
第15回	中間報告	第15回	中間報告

到達目標

①学術誌へ論文を投稿する、②学会にて研究成果を報告する。

履修上の注意

博士課程の大学院生らしく、真摯に研究活動に取り組んでください。博士論文の執筆において、指導教員とのコミュニケーションは最重要です。こまめに連絡を取りましょう。

評価方法

博士論文への取り組みによって評価します（100％）。

テキスト

特に指定しません。

授業概要

1、2年次で取り組んできた研究テーマを、博士論文としてまとめます。

授業計画

<前期>		<後期>	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	博士論文執筆に向けた構成の最終確認①	第2回	博士論文の完成に向けたスケジュール確認
第3回	博士論文執筆に向けた構成の最終確認②	第3回	博士論文の執筆状況報告⑨
第4回	博士論文執筆に向けた構成の最終確認③	第4回	博士論文の執筆状況報告⑩
第5回	博士論文の執筆状況報告①	第5回	博士論文の執筆状況報告⑪
第6回	博士論文の執筆状況報告②	第6回	博士論文の執筆状況報告⑫
第7回	博士論文の執筆状況報告③	第7回	博士論文の章別確認①
第8回	学術誌への論文投稿状況の確認①	第8回	博士論文の章別確認②
第9回	博士論文の執筆状況報告④	第9回	博士論文の章別確認③
第10回	博士論文の執筆状況報告⑤	第10回	博士論文の章別確認④
第11回	博士論文の執筆状況報告⑥	第11回	博士論文の全体確認①
第12回	学術誌への論文投稿状況の確認②	第12回	博士論文の全体確認②
第13回	博士論文の執筆状況報告⑦	第13回	博士論文完成前の最終確認①
第14回	博士論文の執筆状況報告⑧	第14回	博士論文完成前の最終確認②
第15回	中間報告	第15回	博士論文の完成報告

到達目標

博士論文を完成させる。

履修上の注意

博士課程の大学院生らしく、真摯に研究活動に取り組んでください。博士論文の執筆において、指導教員とのコミュニケーションは最重要です。こまめに連絡を取りましょう。

評価方法

博士論文への取り組みによって評価します（100%）。

テキスト

特に指定しません。